初等教育カリキュラム研究　第12号　2024，pp.21-30

実践論文

Googleサイトを活用した小学校社会科学習材の開発

― 第３学年単元「山田錦物語」を事例として ―

吉川　修史[1]

要約

本研究の目的は，Googleサイトを活用した小学校社会科学習材を開発することである。小学校中学年社会科は「地域」が学習対象となる。しかし，多くの学校現場では教科書掲載の事例をそのまま授業で取り上げるなど，「地域」を学ばない地域学習が展開されている。その理由の1つとして，社会科副読本の内容が不十分な点がある。社会科副読本の内容が不十分な地方自治体や，社会科副読本が存在しない地方自治体では「地域」を学ぶことが困難な状況となっている。これらの課題を踏まえ，本研究ではGoogleサイトを活用した小学校社会科学習材の開発を行った。まず，先行研究を整理した後，Googleサイトを活用した小学校社会科学習材の特質や意義についての考察を行った。そして，第3学年単元「山田錦物語」を事例として，Googleサイトを活用した小学校社会科学習材を開発し，学習材を活用した授業実践の分析・検討を行った。

キーワード：地域学習，社会科副読本，デジタル教科書，学習材，Googleサイト

1. 小学校社会科副読本の課題と本研究の目的

小学校中学年では，子どもが生活する身近な社会を「地域」と捉え，学校周辺のまち，市区町村，都道府県などの行政区分を中心に学習する。地域を学ぶ上で重要な役割を果たすのが社会科副読本である。藤瀬（2022）は，社会科副読本について，市区町村の教育委員会や社会科教育研究会が図書を作成・編集することや，身近な地域の情報を学習指導要領や採択された教科書の趣旨を踏まえて収集・編集することにより，小学校中学年社会科の「主たる教材」として活用できるように作成されると述べている（p.172）。

これまで，様々な社会科副読本の研究がなされてきた。代表的なものとして次の2つがある。

池（2008）は，静岡県内の社会科副読本を分析し，①2007年4月現在において教科書準拠型の副読本が全体の約85%を占め，その多くの記述スタイルが学習展開重視型であること，②市町村合併に伴って自治体の広域化が進む中で「市（区町村）」の学習と，子どもにとっての「身近な地域」の地域性を反映することが困難となっていること，③教科書と副読本の機能分担を再検討する必要があること，などを明らかにした。

岡崎（2018）は，デジタル副読本の理論と設計方法について，学習目標の設定や単元構成から教科書の事例開発までを具体例と共に示した。電子媒体の特性を生かし，資料と本文の関連を考察し，思考する学習過程を副読本に組み込んでいるため，誰もが一定のレベルの社会科授業をでき，学ぶことが可能な新しい副読本の形であるとしている。

また近年，広島大学教育ヴィジョン研究センターが社会科地域学習用デジタルコンテンツの開発を行っている。守谷ら（2020）は，地域学習における副読本の現状と課題について考察し，「地域自治体が監修・刊行する副読本だけでは不十分であり，副読本の機能を補完・強化する別の教材を開発する必要がある」と述べている（p.60）。そして，「わたしたちのまちのすごいところ」等10のカテゴリーを構想した上で，「酒づくり」「ため池」等10のキーワードに関するデジタルコンテンツを開発し，webサイトに公開している。守谷ら（2021）は，新たに10のキーワードに関するデジタルコンテンツを開発し，公開している。探究的な学びを通して図書館への関心を高めるデジタルコンテンツについて述べたり，デジタルコンテンツを活用したオンライン教育の可能性を実証したりしている。大坂ら（2021）は，小学校教師が地域学習を実施する上で①「教師自身が指導する地域について不案内であるという課題（p.303）」，②「広域合併にともなう『地域』の拡がりという課題（p.303）」，③「調査や観察に行く機会の減少という課題（p.303）」の3つの課題

[1] 加東市立社小学校

に直面しているとし，新たに10のキーワードに関するデジタルコンテンツを開発し，広域交流型地域学習の構想を示している。吉田ら（2022）は，東広島市における広域交流型オンライン社会科地域学習の参加児童アンケートを分析し，遠隔教育のもつ越境性を実証するとともに，遠隔教育の新たな可能性を提示している。

しかし，本研究の視座を踏まえると，先行研究には次の4点が課題として挙げられる。

1点目は，社会科副読本が存在しない，もしくは社会科副読本の内容が不十分な市区町村における地域学習の在り方に関する研究が見られないことである。社会科副読本が存在しない，もしくは内容が不十分な市区町村では，社会科授業を展開することが困難な状況となっている。そのような市区町村でも社会科授業を展開できる仕組みを作っていくことが求められている。

2点目は，現場の教師集団が学習材作成にいかに関わることができるのかという点が不明確なことである。これまでの副読本研究の多くが，副読本作成の主体として市区町村の教育委員会や社会科教育研究会が位置付けられてきた。しかし，各地方自治体により副読本の改訂時期が異なったり，副読本作成を行わなかったりする状況がある。地方自治体によっては長期間内容の改訂が行われず，統計資料などのデータが古くなってしまったり，社会システムの変容などにより副読本掲載内容と現実社会とのズレが生じてしまったりする。市区町村の教育委員会や社会科教育研究会から「与えられる」だけでなく，教師集団も学習材作成に「関わる」仕組みをつくることが必要である。

3点目は，児童の学習材使用に対する感想を学習材作成に反映する視点が見られないことである。これまでは，大人が，子どもにとってよいと思われる内容や構成を考え，副読本を作成してきた。しかし，学習材を使用するのは児童である。児童が内容や構成に関してもつ様々な感想を，学習材を修正・改善する上で生かしていくことも必要ではないだろうか。

4点目は，副読本作成に関する研究が主であり，「学習材の再構成」という側面が見られない点である。これまでなされてきた副読本研究の多くは，副読本の作成に焦点化されていた。例えば，岡崎は「愛媛南予の水産業」を事例として社会科デジタル副読本のモデルを提示しているが，作成された副読本をいかに再構成していくのかという点については言及されていない。

したがって，本研究では，これらの課題を乗り越えるために，Googleサイトを活用した社会科学習材の開発を提案する。そして，学習材を活用した授業実践を行い，結果を分析する。

2. Google サイトを活用した社会科学習材の特質

2.1. 学習材に着目する意義

中本（2010）は，それまで社会科教育学では数多くの教授書が提案されてきたが，「緻密すぎる」「資料を集めることができない」等の理由により，その多くが活用されなかった状況があることを指摘（pp.31-32）した上で，「教科書は児童・生徒が学習するための主たる教材である。しかしそれと同時に，一般に教師自身もまずは教科書を読んで学習内容を学習する。」「教師も児童・生徒も教科書から学ぶ。…（略）…教授書から『学習材』を開発し，教授書に『学習材』を加えることで，教授書に欠けている教師の学習機能を補完することができる。」と述べ，学習材を開発する理由を示している（p.32）。したがって，社会科副読本が存在しない，もしくは内容が不十分な市区町村では，教師と児童双方に欠かすことのできない学習材を開発し，それを活用した授業を展開できるようにしていくことが求められる。

2.2. Googleサイトを活用した社会科学習材の特徴

どのように教師・児童双方が活用できる学習材を作成できるだろうか。Googleサイトを活用した社会科学習材の特徴は次の5点である。

1点目は，多様な資料を掲載できることである。紙媒体の副読本と異なり，Googleサイトには，文字資料や，写真，図，動画資料などを掲載することができる。また，インターネットのURLを添付することで，ホームページにもアクセスすることが可能である。

2点目は，紙幅の制限がないことである。教科書や教科書準拠型の副読本では多くの場合，見開き1ページに授業1コマ分の学習内容が掲載されている。したがって，掲載される資料については紙幅を考慮せざるを得ない。しかし，Googleサイトを活用すると，紙幅の制限がないため多くの資料を掲載することが可能である。子どもたちのさらなる追究を促すため，関係する様々な資料を入れておくこともできる。

3点目は，編集が容易なことである。紙媒体の副読本では一度製本されると改訂まで時間がかかる。その間に，資料を差し替えたり，内容を修正・改善したりすることは基本的にできない。しかし，Googleサイトを活用すると，実践後に内容の妥当性の検討を行った後，すぐに修正・改善を行うことが可能である。

4点目は，学習材の利用や共有の柔軟性である。Googleクラスルームを活用し，作成した学習材を共有することができる。同じ学校の教職員間や同じ市区町村の教職員間での学習材の共有が進むと，学習材準備の負担軽減につながるとともに，学校全体，あるいは市区町

村全体で学習材をよりよいものへと修正・改善していくことにつながる。

5点目は，コストの低さである。紙媒体の副読本作成における大きな問題はコストの高さである。毎年，印刷・製本を続けるとなると各地方自治体の負担は大きい。Googleサイトの活用は，印刷・製本に関わるコストの問題も克服することが可能である。

2.3. Googleサイトを活用した社会科学習材の意義

本研究では，社会科副読本が存在しない，もしくは内容が不十分な市区町村を想定した学習材の開発を行う。個人や学校単位で作成した学習材を市区町村内で共有し，内容や構成をよりよいものに修正・改善していくシステムの構築を目指す。Googleサイトを活用した社会科学習材の意義は，次の3点である。

第1は，ボトムアップ型の社会科学習材となる点である。これまでに作成されてきた社会科副読本作成の主体は，市区町村の教育委員会や社会科教育研究会であり，現場の教師は完成した副読本を「与えられる」存在であった。市区町村の教育委員会という行政機関や，社会科教育研究会に所属する一部の教師によって作成されたものがトップダウン的に現場に降りてくる。社会科教育研究会に所属しない教師は副読本の構成や内容に関わることはできない。また，社会科副読本を作成しない市区町村では，教師は教材を一から準備しなければならい状況となっている。しかし，Googleサイトを活用した社会科学習材においてはこれらの課題を克服することが可能である。一般的にGoogleサイトは同じ市区町村内の教師であれば，誰もが使用でき，手軽に学習材を作成することができる。そして，ある教師が作成した学習材を学校内，あるいは市区町村内で共有することが可能である。

第2は，作成した学習材を再構成できる点である。社会科副読本の改訂までの期間は市区町村によって様々である。Googleサイトを活用した社会科学習材は，紙の副読本とは異なり，いつでも編集が可能である。中でも重要なのが，実践後に授業展開や資料の妥当性について検討を行い，次年度の活用に向けてすぐに学習材の再構成を行えることである。実践後は，児童アンケートや活用した教師の振り返りをもとに，教師集団で修正点や改善点を議論し，次年度へ向けて学習材をよりよいものへと更新していくことができる。教師が学習材の再構成に関わることは，教師の教材開発力や授業構成力を伸ばすとともに，学習材や授業展開の妥当性の検討等を促すことにもつながる。

第3は，学習者が多様な資料にアクセスでき，様々な資料から考えを構築できる点である。Googleサイトは紙の副読本とは異なり紙幅の制限がないため，多様な資料を掲載することができる。情報が溢れる現代社会を生きる子どもたちに，多様な資料から自分の考えを構築する力を育てることは必要不可欠である。

社会科副読本が存在しない，もしくは内容が不十分な市区町村においては，作成した学習材を活用することで，子どもたちの学びを保障できるとともに，教師の教材準備に関わる負担軽減につながる。

3. 第３学年単元「山田錦物語」における学習材の開発

本研究では，Googleサイトを活用し，第3学年単元「山田錦物語」における学習材を開発する。加東市には，ふるさと学習副読本（2021年発行）が存在するが，全教科等での活用が意図されており，社会科の目標や内容に対応できていない部分が多い。また単元としての構成が不十分なため，ふるさと学習副読本のみで社会科授業を展開することは困難な状況となっている。そこで本単元では，作成した学習材を中心に学習を展開し，ふるさと学習副読本や，加東市観光ガイドマップ（地図）等を補助教材として活用することを想定している。

3.1.「山田錦」に関する基礎的考察

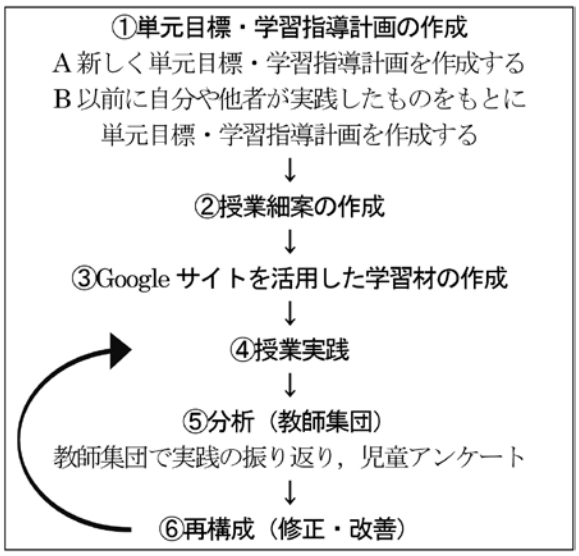
山田錦に関しては，兵庫県酒米研究グループ（2010）を参照した。山田錦は，1928年兵庫県立酒造米試験地（現：兵庫県立酒米試験地）において誕生した酒米である（p.41）。山田錦は，「大粒」「心白」「低タンパク質」という3つの条件を満たした酒造好適米である（pp.12-18）。山田錦を第3学年地域学習に取り上げる意義は，次の3点である。1点目は，山田錦を通して加東市の自然（気候や地形）を理解できる点である。中でも，加東市東条地域は，気候・地形・土壌が山田錦生産に適しており，古くから良質な山田錦を生産し続けている（pp.132-143）。2点目は，山田錦を通して加東市の歴史や他地域とのつながりなどの社会背景を理解できる点である。もともと神戸市や西宮市の酒造会社は，大阪府の中上米を使用していたが，戦時下という特殊な状況下において県外産の酒米を使えなくなり，偶然目を付けた山田錦を使用するようになる（pp.65-67）。3点目は，山田錦を通して，日本酒と日本人の営みを考えられる点である。日本酒は祭りや正月など年中行事に欠かすことのできないものである。吉田（2015）は，「神酒は神に捧げる酒である。農耕社会においては，穀物が無事収穫できたことを神に感謝し，また翌年の豊穣を祈願する。」と述べ，農耕社会における酒のもつ意味について記している（p.31）。

3.2. Googleサイトを活用した社会科学習材開発の道筋

Googleサイトを活用した社会科学習材を開発する道筋を示したのが図1である。①単元目標・学習指導計画の作成→②授業細案の作成→③Googleサイトを活用した学習材の作成→④授業実践→⑤分析（教師集団）→⑥再構成（修正・改善）という道筋で学習材を開発し，実践，再構成へとつなげていく。⑥後は，再び授業実践→分析→再構成→授業実践→…と学習材を再構成し続ける。この工程を続けることで学習材がよりよいものに精緻化されていく。

本研究では，児童アンケートや教師の振り返りをもとに，教師集団で学習材の分析を行い，次年度へ向けた修正・改善の方向性を導き出すことを目指す。

図1：Googleサイトを活用した社会科学習材開発の道筋



3.3. 単元目標・学習指導計画の作成

最初に行うのが，単元目標・学習指導計画の作成である。これには2つの方法が考えられる。1つ目は，新しく単元目標・学習指導計画を作成する方法である。学習指導要領や教科書を手がかりとして，地域の何をどのように教えるのかを考えることとなる。一から考えるという意味において時間がかかる。2つ目は，以前に自分や他者が実践したものをもとに単元目標・学習指導計画を作成する方法である。この方法は，以前に実践されたものを再構成して単元目標･学習指導計画を作成する。したがって，一から考える方法に比べると時間を節約することが可能となる。また，単元全体のイメージを立てやすい。本研究では2つ目の方法を用いた学習材の開発を行う。

本単元は，筆者が2016年に前任校で食育として行った社会科授業をもとにしている。2016年の学習指導計画が表1である。これを再構成したものが表2に示した第3学年単元「山田錦物語」学習指導計画（2022年）である。変更点は，次の3点である。

①学習指導要領の改訂に伴い，単元の目標を3観点に変更した。
②コロナ禍という社会状況や，学校間での教育環境の違いを考慮し，見学をなしとし，教室だけで授業が展開できるよう単元構成を変更した。
③全時間数を11時間から，8時間へと変更した。

3.4. 授業細案の作成

次に行うのが授業細案の作成である。「教師の働きかけ」を「問い」の形で記述していく。そして，その「教師の働きかけ」に対する「予想される児童の反応」や「身に付けさせたい知識」を記していく。子どもの既有の知識を引き出したい場面や子どもなりの考えを表現させたいときは「予想される児童の反応」として記述し，学習活動を通して子どもたちに捉えさせたい知識は「身に付けさせたい知識」として記述する。また，使用する資料についても明記するようにする。この段階で十分に使用する資料が決まっていない場合は「〜に関する動画資料」や「〜の写真資料又は〜に関するインタビュー」などのようにその時点で想定している資料を記述し文字の色を変えたり，下線を入れたりして決定していないことが分かる

表1：第3学年単元「山田錦物語」学習指導計画（2016年）

単元の目標 ○特産物に関心をもち，農家の取組や生活とのつながりについて進んで調べようとする態度を養う。（関心・意欲・態度） ○山田錦が特産物である理由を自然条件と社会条件から考えることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等） ○具体物や資料，見学等で得た情報を活用し，山田錦が特産物である理由を自然条件と社会条件を踏まえて説明できるようにする。（技能） ○特産物は自然条件や社会条件が合った土地で生産されることを理解できるようにする。（知識・理解）	
第一次：お酒と日本人	お酒とは何かを考える。(1)
第二次：特産物「山田錦」	山田錦とは何かを知る。(2) ／山田錦の生産方法を理解する。(1) 田んぼを見学する。(1) ／加東市ではたくさんの山田錦が生産されている理由を理解する。(1) 加東市と酒造会社の関係を理解する。(1)／灘にたくさんの酒造会社がある理由を理解する。(1) 酒造会社が山田錦を使うようになった理由を理解する。(1)
第三次：加東市の特産物	加東市の特産物について調べる。(1)

表2：第3学年単元「山田錦物語」学習指導計画（2022年）

単元の目標
○地図や年表，動画資料をもとに加東市で多くの山田錦が生産されている理由について調べることを通して，特産物は自然条件や社会条件が合った土地で生産されることを理解できるようにする。（知識・技能）
○山田錦が特産物である理由を自然条件と社会条件から考えることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等）
○特産物に関心をもち，農家の取組や生活とのつながりについて進んで調べようとする態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

次	時	学習問題	本時の目標
一，お酒と日本人	1	お酒って何だろう？	お酒からイメージすることを交流することを通して，年中行事とお酒との関わりや，日本酒と米との関わりを考える。
二，特産物「山田錦」	2	山田錦って何だろう？	山田錦は，加東市出身の藤川禎次さんが加東市にある酒米試験地で生み出した品種であることや，兵庫県で生産されている山田錦のほとんどが北播磨地域で生産されていることを理解する。
	3	山田錦は，どのように生産されているのだろうか？	山田錦暦を作ることを通して，山田錦がどのように生産されているのかを理解するとともに，農家が一番大変な月はいつなのかを考える。
	4	なぜ，加東市ではたくさんの山田錦が生産されているのだろうか？	加東市でたくさんの山田錦が生産されている理由を，気候・地形・土壌などの自然条件と価格などの社会条件から理解する。
	5	加東市で生産された山田錦はどこへ行くのだろうか？	加東市で生産された山田錦は品質が良く，兵庫県内の酒造会社や，全国各地の酒造会社へと運ばれ日本酒生産に使用されていることを理解する。
	6	なぜ，神戸市や西宮市にたくさんの酒造会社があるのだろうか？	神戸市や西宮市は，六甲おろしや水などの自然条件に恵まれた土地であるとともに，港が近く船を使って江戸へ輸送しやすい場所であったことを理解する。
	7	なぜ，酒造会社は山田錦を使うようになったのだろうか？	神戸市や西宮市の酒造会社はもともと大阪の中上米を使用していたが，戦争により県をまたいでの米の移動が制限され，たまたま目をつけた山田錦で造った日本酒がおいしかったことがきっかけであることを理解する。
三，加東市の特産物	8	なぜ，加東市でぶどうが生産されているのだろうか？	山田錦とぶどうの共通点を見つけることを通して，加東市では地域の自然や地域の人々の技術を生かして様々な特産物が生産されていることを理解する。

ようにしておく。授業細案作成時に完全な授業展開や資料が出来上がっていなくてもよい。実際に，学習材を作成する際に，授業展開が変わったり，使用する資料が変更となったりする場合も想定される。第3学年単元「山田錦物語（第4時）」の細案が表3である。

3.5. Googleサイトを活用した学習材の作成

3.4. で作成した授業細案をもとにGoogleサイトを活用して学習材の作成を行う。細案に記した「教師の働きかけ」を「問い」の形で記述する。問いには番号を記し，学習の流れを把握しやすいようにする。そして，「問い」に対する答えを見つけたり，自分の考えを構築したりする際の手立てとなる資料（地図，グラフ，表，動画，テキスト）を掲載する。You tubeの動画を活用する際には，リンクを添付することも可能である。Googleサイトを活用した小学校社会科学習材「山田錦物語第4時」の構成を示したのが図2である。「問い」と「資料」を示すことで，リモートで授業に参加している児童やリアルタイムで授業

表3：第3学年単元「山田錦物語（第4時）」細案

時	教師の働きかけ	資料	○予想される児童の反応 ・身に付けさせたい知識
4	北播磨で生産せる山田錦は，全体の何パーセントですか？	グラフ「山田錦生産量」	・約 60 パーセント。
	なぜ，加東市ではたくさんの山田錦が生産されているのだろうか？(学習問題) 予想をノートに書きましょう。	これまでの資料，ふるさと学習副読本	○加東市で山田錦が生まれたから。 ○育てやすい場所だから。 ○田んぼがたくさんあるから。
	動画から分かることは何ですか？	動画「山田錦について」	・気候：夏の 1 日の気温差が 10 度以上 ・地形：谷間や盆地 ・土：粘土質の土じょう
	なぜ，ヒノヒカリなどの食用米ではなく，山田錦を生産するのでしょうか？		○加東市でできた酒米だから，作る人もプライドを持っている。 ○食べるお米を作った方がよさそうなのにどうしてだろう…。 ○気候や土が，ヒノヒカリよりも山田錦に合っているから。
	もし，みんなが農家だったら，ヒノヒカリを作りますか？それとも，山田錦を作りました？それは，どうしてですか？	買い取り価格表「山田錦・ヒノヒカリ」	○山田錦を作る。理由は，高く買い取ってもらえるから。 ○山田錦を作りたい。理由は，もうけが大きいから。 ○ヒノヒカリを作りたい。理由は，人間にとって食べるお米方が大切だと思うから。

に参加できない児童も授業展開や学習内容を把握することが可能となる。Googleサイトを活用した学習材は，学級全体での学びだけでなく，個の学びにも対応することができる。また，ページの冒頭に準備物として「ふるさと学習副読本」や「加東市観光ガイドマップ」等を記載したり，展開部分に「副読本〇〇ページで調べましょう」等の学習活動を促す記述を記載したりすることで，Googleサイトを活用した学習材と他の学習材とを有効に結び付けて授業を展開することができる。

4. 実践の概要と分析

4.1. 倫理的配慮

本研究の成果公表については，学校長やインタビュー対象の教師から承諾を得た。また，本稿執筆にあたっては，児童のプライヴァシー保護の観点から，児童の記述に関して「ア」,「イ」といった表記を採用する。

4.2. 実践の概要

本実践は，2022年10月～12月に兵庫県公立小学校第3学年3学級を対象に行った。同じ資料を使っているが，担任によって展開の仕方や時間数に違いが生じている。教師Aは，Googleサイト第6時やGoogleサイト第7時の内容を2時間かけて扱い，単元の最後にまとめの時間を設定している。教師Bは，Googleサイトに提示された流れで学習を展開し，全8時間となっている。筆者は，Googleサイト第2時の学習内容が多く，45分間で全てを扱うことができなかったため，Googleサイト第3時の内容を学習した後に，再度Googleサイト第2時の内容を扱った。

4.3. 児童アンケートの結果

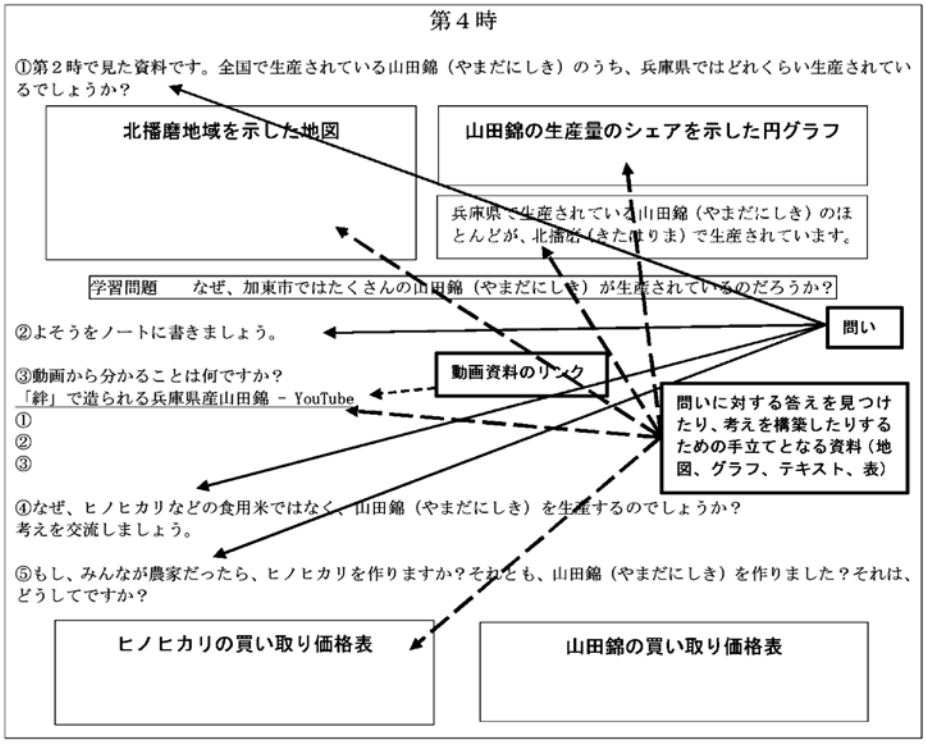
実践後，児童91人を対象にアンケートを行った。

質問1「社会科「山田錦物語」のじゅぎょうでタブレットを使いました。タブレットを使った社会科のじゅぎょうはよかったですか。それとも，よくなかったですか。」に関しては，回答した全ての児童が「よかった」と答えている。アンケート結果より，多くの児童がGoogleサイトを活用した小学校社会科学習材による授業を肯定的に評価していることが分かる。

質問2「タブレットを使った社会科のじゅぎょうはどんなところがよかったですか。」に関する結果をまとめたものが表4である。「自分たちが住んでいる加東市にかんけいする資料がたくさんあったのがよかった。」という項目について，全体の73%の児童が〇と回答しており，Googleサイトを活用した小学校社会科学習材が，地域のことを学ぶ手立てとなり得ていたことを読み取ることができる。また，「写真があったのがよかった。」については，89%の児童が〇と回答している。第3学年の児童にとって写真資料がイメージを膨らませたり，社会事象を捉えたりする上で重要な手立てとなっていると考えられる。「地図があったのがよかった。」についても，80%の児童が〇と回答しており，距離や位置，方位を捉える上で地図が有効な手立てとなっていると考えられる。アンケート結果を踏まえて，各資料の掲載の在り方について再検討する必要がある。

質問3「質問2のほかに，タブレットを使った社会科のじゅぎょうでよかったところはありますか。」に関する結果をまとめたものが表5である。オ「どうがが，あってよかったです。」のように動画資料が組み込まれていたことを肯定的に評価

図2：Googleサイトを活用した小学校社会科学習材「山田錦物語第4時」の構成



（明朝体で示しているのは，実際にGoogleサイトに記載されている内容。ゴシック体で示しているのは，筆者による補足。）

した意見や，コ「せつめい文がくわしく書かれているのがよかったです。」のように説明文の記述内容を肯定的に評価した意見が見られる。また，サ「わざわざページをめくるひつようがなく，手でスライドさせるだけだから，音をたてるひつようもなく，しずかで学習できる。」のようにタブレットと紙媒体の学習材とを比較し，タブレットを活用することの良さについて述べたものも見られる。

質問4「タブレットを使った社会科のじゅぎょうでよくなかったところはありますか。」に関する結果をまとめたものが表6である。シ「写真がちょっとみにくかった。」やス「文しょうがどういうことかわからなかった。」のような記述が見られた。写真については掲載する枚数を増やしたり，画面を大きくする方法を指導したりすることを検討する必要がある。また，文章内容を理解することが難しかった児童が存在することから，文章表現についても再度検討する必要がある。

質問5「タブレットを使った社会科のじゅぎょうで『～してほしい』ということはありますか。」に関する結果をまとめたものが表7である。Googleサイトを活用した社会科学習材を改善するための示唆を与えてくれる意見が多く見られる。セ「米のヒノヒカリと山田錦のどんなにくさたけがちがうのか写真をいれてほしい。どうしてかというと何cmぐらいのちがいかわからないから。」は，ヒノヒカリと山田錦の写真を掲載するだけでは草丈の違いを捉えにくいという指摘である。写真を掲載するだけでなく，それぞれの草丈が何cmなのかを示すことで違いを具体的に捉えることができる。「山田錦を売っているのは，どんな場所と言うことを書いてほしかった。理由はどんな場所に売っているか知りたいから。」も鋭い指摘である。学習材には山田錦を使用した日本酒のビンやラベルの写真を掲載した。しかし，酒を飲んだことがない児童は酒がどこでどのように売られているのかを知らない。農家で生産された山田錦が酒造会社で日本酒となり，スーパーマーケットや酒屋等の店で販売された後，各家庭で飲まれることになる。この「生産→販売→消費」が，本学習材では「生産→　→消費」となっており，生産と販売，消費がつながりにくくなっていたのである。児童が指摘するように，日本酒が売られている場所に関する写真を掲載することは，生産と販売，消費を結びつける上で有効である。ナ「のうかの仕事を社会見学をしてほしい。理由はのうかの本当の気持ちが分からないから。」も注目すべき意見である。コロナ禍という社会状況や学校の環境等を考慮して社会見学を行わなかったが，学習材の中に農家へのインタビューを動画やテキストで掲載し，児童が農家の工夫や努力，願いを捉えられるようにすることを検討する必要がある。

4.4. 教師集団による授業実践の振り返り

2023年1月6日，教師A，教師B，筆者で授業実践の振り返りを行った。教師アンケートにもとづく意見交流

表4：児童アンケート（質問2）

質問２：タブレットを使った社会科のじゅぎょうはどんなところがよかったですか。あてはまるものすべてに〇を書きましょう。				
	1組（33人）	2組（28人）	3組（30人）	全体（91人）
自分たちが住んでいる加東市にかんけいする資料がたくさんあったのがよかった。	24人（73%）	18人（64%）	24人（80%）	66人（73%）
1時間ずつ，ないようが分かれているのがよかった。	24人（73%）	15人（54%）	23人（77%）	62人（68%）
学習問題や問い（「～か？」）が書かれていたのがよかった。	13人（39%）	15人（54%）	19人（63%）	47人（52%）
文章が分かりやすくてよかった。	22人（67%）	23人（82%）	22人（73%）	67人（74%）
写真があったのがよかった。	28人（85%）	26人（93%）	27人（90%）	81人（89%）
表やグラフがあったのがよかった。	28人（85%）	20人（71%）	20人（66%）	68人（75%）
地図があったのがよかった。	27人（82%）	21人（75%）	25人（83%）	73人（80%）
よかったところはない。	0人（0%）	0人（0%）	0人（0%）	0人（0%）

（%については，小数点以下は四捨五入により示している。）

表5：児童アンケート（質問3）

質問３:質問２のほかに，タブレットを使った社会科のじゅぎょうでよかったところはありますか。ある人は，下の□に書きましょう。ない人は，質問４に進みましょう。
ア：がぞうがあってよかった。／イ：ひょうごけんにたくさんの山田錦があるってしってよかった。
ウ：タブレットでいろんなべんきょうができてよかった。
エ：山田錦のお酒をどのように作っているのか，山田錦のお酒はどこに生産されていることをべんきょうできてよかったなと思いました。／オ：どうがが，あってよかったです。／カ：どんなふうになっているのかがわかってよかった。
キ：もじが分かりやすかった。／ク：山田錦物語のないようとか，くわしくかかれていたのがよかったです。
ケ：せんそうがしってよかった。大人になったらのんでみたい。ぜいたくひん，もうけをしった。
コ：せつめい文がくわしく書かれているのがよかったです。
サ:わざわざページをめくるひつようがなく，手でスライドさせるだけだから，音をたてるひつようもなく，しずかで学習できる。

表6：児童アンケート（質問4）

質問４：タブレットを使った社会科のじゅぎょうでよくなかったところはありますか。ある人は，下の□に書きましょう。ない人は，質問５に進みましょう。 シ：写真がちょっとみにくかった。／ス：文しょうがどういうことかわからなかった。

表7：児童アンケート（質問5）

質問５:タブレットを使った社会科のじゅぎょうで「～してほしい」ということはありますか。ある人は，下の□に書きましょう。理由も書いてください。（例）酒蔵会社の写真を入れてほしい。どうしてかというと、酒蔵会社が何なのかイメージするのがむずかしいから。 セ：米のヒノヒカリと山田錦のどんなにくさたけがちがうのか写真をいれてほしい。どうしてかというと何 cm ぐらいのちがいかわからないから。 ソ：山田錦はほかのお酒とくらべてどちらがおいしいかを表やグラフにしてほしいです。 タ：山田錦を売っているのは，どんな場所と言うことを書いてほしかった。理由はどんな場所に売っているか知りたいから。 チ：イメージするのはすこしむずかしい。／ツ：山田錦の年表があったのがよかった。／テ：例とおなじです。 ト：図に書いてある字を大きくしてほしい。理由は，図に書いてある字がちょっとみにくいし，漢字がよみにくいからです。 ナ：のうかの仕事を社会見学をしてほしい。理由はのうかの本当の気持ちが分からないから。 ニ：しゅぞうがい社のしゃしんがほしい。どうしてかというとつくっているところを少しでもみたいから。 ヌ：社会のタブレットのじゅぎょうでいろいろなもののしゃしんをいれてほしいです。どうしてかというとこれはどんなものなんだろう？とこまってしまったりしてしまうかもだから。 ネ：山田錦が今で何こできるのかきかせてほしい。どうしてかというと，米があっても，何こか分からないから。

表8：教師集団による授業実践の振り返り（日本酒が売られている写真の挿入場所について議論した場面）

筆　者：	最初の方がイメージしやすいですか？
教師Ａ：	自分のクラスでは，お酒が売られているのは知っているっていうふうに，山田錦とは言ってないですけど，そしたら，「お父さんお母さんとかと買い物行った時に，ビンのやつを売っているのは見た」っていうのを言っている子たちが何人かいて，で，場所とかけっこう分かるのって聞いたら，「うん，お酒コーナーに売っているのは知っている」っていうふうに言う子もちらほらいてたので，で，それを，最初の方に自分聞いたんですよ。その，導入的な感じで。山田錦ってどんなんか分かる…米でつくられているっていう話をしたと思うんですけど，で，その時に聞いたら，それをボーって言ったんですよ。それが最初に出たから，また，分からない人は，親と買い物する時にぜひ，見てみてって言ったら，そっから見てきた子がたくさんいて，「あのビンのやつが売ってあった。でも，山田錦のではなかった」「違うお酒があった」っていうのもあったりしたので，ぼくは最初の方に，なんか，こんな風に並べられてるの見たことある？っていう風に，出してもらった方が，子どもたちもそれを見て休日とか，学校終わりに見て，そこから授業来た時に，「あったよ」って言ってくれた方が進みやすいのかなあっていう風には思いました。
筆　者：	導入らへんでってことやんね。分かりました。
教師Ｂ：	私もそうかな。社会の教科書もスーパーマーケットの時に，お店の陳列の写真から入っていたから，そっから子どもらグーっときたから，やっぱり子どもたちが見れるものから，写真入ったら興味あるんかなあと思って，やっぱり陳列の様子は最初見て，こんな風に売られてるんやなあから入った方が子どもは入りやすいんかなあと思いますね。
筆　者：	今回，お店の方が先にしてたから，そことつなげて学習入れてもよかったかもしれないですね。お店のどこにあるかなあとか。で，写真があったりしたら，前の学習とのつながりもできるかなと思いました。
注：「…」は聞き取ることができなかった部分を示す。	

や，児童アンケートの分析を行った後，Googleサイトを活用した小学校社会科学習材「山田錦物語」修正・改善の方向性について議論した。

表7「タ」の意見を受け，日本酒が店で売られている写真を入れるとしたらどこに入れたらよいかについて議論した場面が表8である。教師Aは，授業における児童の発言から導入段階に写真を入れた方がよいと述べている。教師Aの語りから，教師Aが授業での学びと子どもたちの日常生活を結びつける問いかけを大切にしていることが分かる。教師Bは，前単元の学習展開を想起し，子どもの見えるものから学習を展開することの有効性について述べている。

この他にも，Googleサイト第2時が内容過多であることから，Googleサイト第2時を2時間分として再構成し直すことや，生産者のインタビュー動画もしくはインタビューテキストを入れることの重要性等についても議論した。

4.5. Googleサイトを活用した小学校社会科学習材「山田錦物語」修正・改善の方向性

5.2～5.4をもとに，Googleサイトを活用した社会科学習材「山田錦物語」修正・改善の方向性を示す。

- 第１時に日本酒が売られている写真を入れる。
- 第２時を２時間分に再構成する。
- 第３時のヒノヒカリと山田錦を写した写真については，草丈が分かるように cm を記載する。
- 第３時に生産者のインタビュー動画もしくは，インタビューテキストを入れる。
- 第４時に山田錦や日本酒の生産量を記載する。
- 動画の何に着目するのか記述する。もしくは，キーワードを穴埋めする形にする。
- 第６時に酒造会社の写真を入れる。

今後は，これらをもとに，Googleサイトの修正・改善を行っていく。児童アンケートや教師へのインタビュー・

アンケートを踏まえて修正・改善を行うことで，教師・児童双方にとって活用しやすい学習材に再構成し続けることが可能である。

5. おわりに

本研究の意義は，次の3点である。

第1は，先行研究の課題を踏まえ，Googleサイトを活用した小学校社会科学習材の意義として，①ボトムアップ型の小学校社会科学習材となる点，②作成した学習材を再構成できる点，③学習者が多様な資料にアクセスでき，様々な資料から考えを構築できる点という3つを示したことである。

第2は，Googleサイトを活用した小学校社会科学習材の道筋を示し，第3学年単元「山田錦物語」を事例として学習材開発の具体を示したことである。開発した学習材は，全8時間構成とし，「問い」と問いに答えるために必要な「資料」を提示する構成とした。

第3は，児童アンケートや教師へのインタビュー・アンケートによる実践の分析を行い，開発した学習材の修正点・改善点を明らかにしたことである。本研究を通して，Googleサイトを活用した社会科学習材は，教師集団だけでなく，子どもたちの意見をも踏まえた再構成が可能であることが明らかになった。

今後の課題は，次の4点である。

第1は，本研究で開発した第3学年単元「山田錦物語」における学習材を精緻化させていくことである。本学習材を市内の小学校で活用してもらい，実践を積み重ねることでよりよい学習材に再構成し続けていくことが重要である。

第2は，様々な単元でGoogleサイトを活用した小学校社会科学習材の開発を行うことである。Googleサイトを活用した社会科学習材の開発を続けることは，「地域を学ぶ地域学習」を定着させることにつながる。

第3は，各地方自治体内で誰が，どのように学習材を作成していくのかという学習材作成システムを構築することである。本研究のような学習材作成は，内容の妥当性を評価し続ける必要がある。また，特定の個人や学校に時間的・金銭的な負担を強いる恐れがあることにも留意する必要がある。

第4は，Googleサイトを活用した社会科学習材は，子どもたちが地域を理解していく上でどのような効果があるのかについて検討を行っていくことである。

参考文献

池俊介（2008）「市町村合併に伴う社会科副読本の課題」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』18号, pp.1-14.

大坂遊・草原和博・宇ノ木啓太・小栗優貴・玉井慎也・守谷富士彦・岩佐佳哉・宅島大尭，・両角遼平・青木理恵・岩﨑泰博・正出七瀬・瀬谷敦之・鈩悠介・桃原研斗（2021）「探究的な学びを支援する小学校社会科地域学習用デジタルコンテンツの開発と活用（3）―広域交流型オンライン社会科地域学習の構想」広島大学大学院人間社会科学研究科紀要『教育学研究』第2号, pp.32-310.

岡崎均（2018）「小学校社会科デジタル副読本の設計と開発に関する研究―愛媛県南予地方の水産業教材の事例開発を手がかりに―」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第30号, pp.77-86.

中本和彦（2010）「『学習材』を活用した地理授業モデルの実践・検証―中等社会科教師による単元『インド』の実践比較を通して―」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第22号, pp.31-40.

兵庫酒米研究グループ（2010）『山田錦物語―人と風土が育てた日本一の酒米』神戸新聞総合出版センター.

藤瀬泰司（2022）「教科書・副読本」棚橋健治・木村博一『社会科重要用語辞典』明治図書, p.172.

守谷富士彦・大坂遊・篠田裕文・青本和樹・髙見史織・正出七瀬（2020）「探究的な学びを支援する社会科地域学習用デジタルコンテンツの開発と活用―『のん太の学び場』と『東広島市立図書館連携講座』の場合―」広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター『学校教育実践学研究』第26巻, pp.59-69.

守谷富士彦・大坂遊・草原和博・宅島大尭・横川知司・村田翔・小栗優貴・両角遼平・篠田裕文・正出七瀬・鈩悠介（2020）「探究的な学びを支援する社会科地域学習用デジタルコンテンツの開発と活用（2）―『のん太の学び場』の特性を活かしたオンライン教育の類型化と試行（フォーラム）―」東京学芸大学地理学会『学芸地理』第76号, pp.37-53.

吉田純太郎・宇ノ木啓太・草原和博（2022）「越境的な遠隔教育を子どもはどう受け止めたか―東広島市『広域交流型オンライン社会科地域学習』参加児童のアンケート回答から―」広島大学大学院人間社会科学研究科紀要『教育学研究』第3号, pp.81-90.

吉田元（2015）『ものと人間の文化史　酒』法政大学出版局,「平成28年度地域の特色を生かした食育推進事業食に関する研究発表会（加東市立滝野東小学校）」研究発表会資料.

Development of Elementary School Social Studies Learning Materials Utilizing Google Sites:
The Case of “Yamada Nishiki Story” for 3rd Graders

Shuji KIKKAWA

Kato City Yashiro Elementary School

Abstract

The purpose of this study is to develop learning materials for elementary school social studies using Google sites. In the middle grades of elementary school, the subject of learning is “local area.” However, in many schools, there is the present condition that community is not learned. Many teachers take the case studies published in textbooks as they are. One of the reasons for this is that the contents of the social studies supplementary readers are insufficient. It is difficult to learn about the region in local governments where the contents of social studies supplementary readers are insufficient or where there are no such books. Based on these problems, we developed learning materials for elementary school social studies using Google sites, taking the 3rd grade unit “Yamada Nishiki Story (Story of the rice for Japanese sake)” as an example, and analyzed class practices using learning materials.

Keywords：community studies, social studies supplementary reader, digital textbook, learning material, Google sites